



災害復旧事業にかかる環境保全型ブロックの使用上の留意事項 について（通知）

技術基準の種類:設計・施工
通知日:平成11年12月13日

河 第 325 号
平成11年12月13日

各土木事務所長 様
各市町村長 様

（鳥取県）土木部長

災害復旧事業にかかる環境保全型ブロックの使用上の留意事項 について（通知）

平成11年12月13日付河第324号で「鳥取県版護岸工法流速関係表」を通知したところですが、災害復旧事業にかかる環境保全型ブロックの使用上の留意事項について別添のとおり定めましたので実施にあたっては適切に対応してください。

環境保全型ブロックの使用にあたっての留意事項

1 環境保全型ブロックの使用基準

環境保全型ブロックの使用基準は別添1のとおりであり、土質条件によっては、適合できない場合があるので現場条件を十分検討すること。
実施設計書では環境保全型ブロックとして形式（フレーム式詰石タイプ、中空式詰石タイプ、ポーラス式ブロックタイプ）と自然環境タイプ（植生、昆虫、魚類）を明記するのみで、実際のブロック選定は請負業者からの使用承諾願いによって決定することとなるが、隣接する箇所で異なったブロックとならないよう留意すること。

2 コスト縮減について

災害復旧事業ではコスト縮減を図ることも重要であり、安易に実施額が査定額を上回らないよう設計内容の精査を再度十分行うこと。
さらに、災害査定において環境保全型ブロックで決定された箇所であっても在り材の有効利用や間伐材の再利用、他鉱区残土の有効活用などコスト縮減（コスト縮減に伴う重変は随時可）に努めること。また複数工事を合冊して諸経費の低減を図るなどの発注段階でのコスト縮減にも努めること。

3 基礎コンクリート

自立フレーム以外の環境保全型ブロックには基礎コンクリートを別途計上することとなるが、その形状・寸法は環境保全型ブロックの控長に応じて従来の基礎コンクリートの標準寸法（間知ブロックの控+裏コンクリート厚）を適用することとする。

4 ガードレール基礎

現時点でガードレール基礎が設置できる環境保全型ブロックはブロックメーカーのガードレール基礎に対する検討が十分でないことから、当面は別添1の使用基準のとおりとする。

ガードレール基礎の形状寸法は従来のとおりとして設計するが、環境保全型ブロックに応じたガードレール基礎の形状寸法を環境保全型ブロックの使用承諾にあわせて承諾することとする。但し金額の変更を伴う設計変更は行わない。

5 根入れについて

自立フレーム工法の根入れ及び岩着基礎については、別添自立フレーム標準断面図のとおりとする。

6 ブロック張工法について

今回制定した環境保全型ブロックの単価・歩掛は法勾配1割未満のブロック積工法を対象としており、法勾配1割以上のブロック張工法については当面の間各土木事務所で個別に対応することとする。

(土質条件： $\phi = 30$ 度、 $C = 0\text{t/m}^2$ 、 $\gamma = 1.9\text{t/m}^2$)

直高

(m)	輪荷重無	輪荷重有	ガードレール基礎有
5.0	エコウォール (50型) エコテラス ヘイベック (350型)	エコウォール (50型) ヘイベック (500型)	エコウォール (50型) ヘイベック (500型)
4.7	自立フレーム ピオトーン		
4.0			
3.8		ピオトーン (自立フレーム)	ピオトーン
3.5		ヘイベック (450型)	ヘイベック (450型)
3.0			
2.0		ヘイベック (350型)	ヘイベック (350型)
0.0			

(注1) 間知ブロックと同様にガードレール基礎が設置できる環境保全型ブロックは上記3種類のみで、直高はガードレール基礎を含む。

(注2) 本使用基準は、土質条件が $\phi = 30$ 度、 $C = 0\text{t/m}^2$ 、 $\gamma = 1.9\text{t/m}^2$ の場合であり、この条件を外れる箇所については別途検討する。

(注3) ポーラス式ブロックタイプの使用は転石等の衝撃を受けない区間でかつ輪荷重の無い箇所とする。

(注4) 自立フレーム工法の場合、メーカー資料では輪荷重有で3.8mまで施工可能だが、極力輪荷重のかからない箇所に使用する。

〇表－２ （法勾配 1：1.0 より急な場合）

基準の勾配が 1：1.0 より急な場合に適用する工法

（本表は、鳥取県内のブロック工場で製造できる製品及び県内ブロック工場へ技術提携し県内製造できる県外メーカーの製品で、間知ブロックと同等価格の製品）

工法名	形式	規格	設計流速（m/s）					施工高さ		自然環境			河況状況			備考	参 考 （製品名）
			2	3	4	5	6	7	輸 荷 重有	輸 荷 重無	植 生	昆 虫	魚 類	河況 床況	氈の 石割 等々		
かごマット かごわく	コンクリート製 籠型多段積み	500×1000 ×2000	6.5					5.0m	5.0m	○	○	△	*1	×	○		かごボックス
		500×1000 ×2000	6.5					4.0m	5.0m	○	○	△	*1	×	×		かごウォール
環境保全型 ブロック	フレーム式 籠タイプ	1000×615 ×2000	10.0					*3 3.8m	4.7m	○	○	○	*2	△	△		自立フレーム
		500×600 ×1000	8.0					3.5m	4.5m	○	○	△	*2	△	○		ソルベール
	中空式 籠タイプ	1000×500 ×1500	8.0					3.0m	5.0m	○	○	○	*2	△	△	工場制作 （石材込）	チェックウォール
		500×500 ×995	8.0					5.0m	5.0m	○	○	×		○	○		エコウォール （50型）
		500×750 ×1950	8.0					—	5.0m	○	○	○		○	○		エコテラス
		500×700 ×1000	6.5					5.0m	6.0m	○	○	×	*2	△	○		緑化キーパル
		500×500 ×2000	8.0					3.8m	4.7m	○	○	○		○	○		ビオトーン
		450×300 ×380	10.0					5.0m	5.0m	○	○	△	*2	△	○		ニューホタル
		450×300 ×380	8.0					5.0m	5.0m	○	○	△	*2	△	○		インベーター
	ポラス式 ブロックタイプ	665×350～500 ×1500	8.0					7.0m	10m	○	○	×		○	○		ヘイベック （植生型） （ポラス型）
		420×250 ×380	7.0					5.0m	5.0m	○	○	△	*2	△	△		シンフォニー

* 1：人頭大以上の氈石がある区間では、採用しない。

* 2：人頭大以上の氈石がある区間では、寄せ石等により水漏れ等の保護をする。

* 3：メーカーの発表は、輸荷重有でも施工可能だが、極力輸荷重のかからない箇所に使用する。